

事業報告書

第 1 事業結果の概要と運営状況

< 保育事業について >

- ・ 保育の実施面では、延1,994人の実施児に、職員32名・パート保育士12名・その他4名計48名の職員を配置した。
- ・ 保育計画や指導計画等に沿って、0・1・2歳児は年齢別保育を3・4・5歳児は異年齢保育と年齢別保育を行い、明るく家庭的な保育環境づくりに心がけた。
- ・ 園児の成長に大切な遊びに意欲的に取り組めるよう援助と配慮に心がけながら養護や教育を行った。
- ・ 標準時間(11時間開所)保育に加え、2時間の延長保育、一時預かり保育、体調不良児保育(自園型)を行い、園で体調が悪くなった場合は保護者がお迎えに来る間、保健室で看護師が対応した。
- ・ 園児一人ひとりを大切に自主性、自発性が養えるよう基礎づくりに努めるとともに、体育指導面では、外部の専門家により月2回の指導、音楽リズム面では「こどもの夢と未来舎」動物とのふれ合いでは「吉川ポニー屋」に委託し、それぞれ月1回実施した。また年長児はお茶のお稽古を月1回実施するとともに、高齢施設への訪問や、地域の方とのふれ合いも行った。
- ・ インフルエンザが1月半ばから出始め、下旬に流行ってきたが、2月上旬になり終息となった。引き続き手洗い・うがいの励行や園児・職員の健康状態に留意した。
- ・ 新規の事業として
 - ① 東京都の補助金により、木育のソフト事業として、講師による職員への研修(木のおもちゃや遊びについてなど)や、4, 5才児の子どもたちの木っ端を使ったペンダントづくりなどで木に触れ、木のおい、手触りを感じることができた。これからも生活の中で、気付き体験できるようにしていきたい。
 - ② 職員向け「彩プロジェクト研修」(リーダー研修)を園内で3回実施した。

< 施設環境の改善について >

- ・ 屋外幼児遊具「砂場ハウス」の更新(東京都木育推進補助金事業)

< 業務処理の改善について >

- (1) 既存の業務処理の見直し改善実施
 - ①インターネット通信回線の安定、高速化
 - ②インターネットセキュリティー対策強化
 - ③Wi-Fi環境の充実
 - ④データ保管の安全性と共有化(サーバ)
 - ⑤サーバデータのバックアップ(クラウドへ)

- ⑥ひかり電話に迷惑電話対策、転送機能
 - ⑦複合機の更新(経費削減、機能強化)
 - ⑧ホームページの見直し充実
 - ⑨パソコン1台の更新
- (2) 新たなOA化
- ① 登降園システム(園児の登降園時間管理・延長保育料計算など)

<組織の運営管理の改善について>

保育事業の実務的な運営面では、職制として、園長・主任・副主任に加えて、14名のリーダー職を今年度も配置し、保育事業のより組織的な運営を進めるとともに将来の人材育成をはかることをめざした。

リーダー職は、毎年度、人選を行った上で、辞令を交付し、組織の活性化もめざしている。

<個別の運営管理面について>

- (1) 事務管理 一般管理、人事・給与・福利厚生、財務管理等の着実な実施に努めた。
- (2) 現業管理 保育内容、保健衛生、給食内容、安全対策その他の管理を通じて職員の資質向上に努めた。
- (3) 嘱託医 内科(ナルケンキッズクリニック)
歯科(上田歯科)
- (4) 委託業務
- | | |
|------------|--------------|
| 経理事務 | (青梅市保育園事務協会) |
| 社会保険・給料・労務 | (内野人事労務事務所) |
| 消防設備 | (株式会社 泰伸) |
| 機械警備 | (セコム株式会社) |
| 非常通報 | (テルウェル) |
- (5) 金融機関 西東京農協調布支店 青梅信用金庫河辺支店
- (6) 園児の保護者に対する家庭保育への支援と連携
- 園児の保護者に対して、園だより・保健だより等の配布をするとともに、給食の献立や身体測定結果をお知らせすることや、保育相談等を通じて、保護者への支援、保護者との連携に努めた。
- (7) 地域での子育て支援
- 子育て支援スペースとしてかるがもルームを開放し、ベビーマッサージ等の育児講座を行った。
- (8) 家庭的保育との連携
- 家庭的保育事業者に対して、保育に関する相談・指導、健診、当園行事への参加一時的な保育代行などを行い、市が進める家庭的保育との連携をはかることとした。